

**国際共同研究事業**  
**スイスとの国際共同研究プログラム**  
**平成 29 年度実施報告書**

平成 30 年 4 月 18 日

独立行政法人日本学術振興会理事長 殿

所属機関・部局 国際基督教大学・教養学部

(ふりがな)

職・氏名 准教授・李 勝勲

1. 事業名 国際共同研究事業スイスとの国際共同研究プログラム
2. 研究課題名 (和文) 音声音韻及び 로마字と元文字の不正書法: ヒマラヤの原住民話者への助力  
(英文) Phonetics Phonology and New Orthographies: Helping Native Language Communities in the Himalayas (PhoPhoNo)
3. 共同研究実施期間 (全採用期間)  
 平成 29 年 2 月 1 日 ~ 平成 32 年 1 月 31 日 ( 3 年 0 ヶ月)
4. 研究参加者  
 (1) 日本側参加者 6 名 (2) スイス側参加者 3 名
5. 主要な物品購入状況 (一品又は一組若しくは一式の価格が 50 万円以上のもの)

物品名	仕様 型・性能等	数量	単価(円)	金額(円)	設置研究機関名
Phonatory Aerodynamics System 音声言語録音システム	システム一式	1	1,224,888	1,224,888	国際基督教大学
Nasality Visualization System 音声言語録音システム	システム一式	1	974,634	974,634	国際基督教大学

備考: 50 万円以上の物品を購入等した場合のみ記入してください。

## 6. 人件費使用状況

氏名	金額	雇用期間	専門及び本研究における役割
Jiwak Raj Bajracharya	401,272	平成29年4月1日～平成29年 8月31日	プロジェクト支援研究員
Hyun Kyung Hwang	906,766	平成29年4月1日～平成30年 3月31日	プロジェクト推進研究員
桃生 朋子	963,312	平成29年9月1日～平成30年 3月31日	プロジェクト推進研究員
梶 帆菜	121,680	平成29年4月7日～平成30年 3月31日	研究補助者
多田 朋佳	98,640	平成29年4月7日～平成30年 3月31日	研究補助者

備考：研究者及び専門技術員・研究補助者を雇用した場合のみ記入してください。  
雇用期間の欄の記入例：「平成25年6月1日～平成27年5月31日」

7. 渡航実施状況

(a) 日本側参加者（代表者を含む）の国内出張

出張者 (氏名)	出発地 (都市名)	用務先 (都市名)	旅行期間*	用 務 (用務先・用務内容)	経費負担**
Jeremy Perkins	会津若松	東京	4月20日～21日 (2日間) 9月10日～11日 (2日間) 2月19日～22日 (4日間)	ワークショップ (三回)	有
Julian Villegas	会津若松	東京	4月21日(1日) 9月9日～11日 (3日間) 2月20日～22日 (3日間)	ワークショップ (三回)	有
川原繁人	東京	東京	4月21日(1日) 9月10日～11日 (2日間) 2月20日～22日 (3日間)	ワークショップ (三回)	有
李勝勳	東京	東京	9月30日～10月 1日(2日間)	日本音声学会	無
李勝勳	東京	静岡	12月1日(1日)	データ収集	有
計 8 名 (延べ人数)			計 24 日		

\* 旅行期間の欄の記入例：「6月10～19日、10日間」（現地到着日～現地出発日）

\*\* 本経費使用予定の有無を記入すること

(b) 当該年度にスイスを訪問した日本側参加者

出張者 (氏名)	出発地 (都市名)	用務先 (都市名)	旅行期間*	用 務 (用務先・用務内容)	経費負担**
李勝勳	東京	ベルン	4月1日～4日 (4日間)	ベルン大学、研究会議	有
Jeremy Perkins	会津若松	ベルン	3月7日～11日 (5日間)	同上	有
Julian Villegas	会津若松	ベルン	3月7日～11日 (5日間)	同上	有
Hyun Kyung Hwang	東京	ベルン	3月8日～11日 (4日間)	同上	有
李勝勳	東京	ベルン	3月7日～11日 (5日間)	同上	有
計 5 名 (延べ人数)			計 23 日		

\* 旅行期間の欄の記入例：「6月10～19日、10日間」（現地到着日～現地出発日）

\*\* 本経費使用予定の有無を記入すること

## (c) 当該年度にスイス以外の国を訪問した日本側参加者\*

出張者 (氏名)	出発地 (都市名)	用務先 (国名・都 市名)	旅行期間**	用 務 (用務先・用務内容)	経費負担***
李勝勳	東京	ネパール、カトマンズ インド、ガントク	6月25日～7月 17日(23日間)	データ収集	有
Hyun Kyung Hwang	東京	ネパール、カトマンズ	7月5日～14日 (10日間)	データ収集	有
Jiwak Raj Bajracharya	東京	ネパール、カトマンズ	6月22日～7月 20日(29日間)	データ収集	有
李勝勳	東京	韓国ソウル	11月9日～14日 (6日間)	学会発表(ソウル国際音声学会)	有
計 4 名 (延べ人数)			計 68 日		

\* 外国出張の渡航先は原則としてスイスのみとします。ただし、当該共同研究の研究成果発表を目的とする学会等への出席や、フィールドワーク等で当該第三国へ行くことが必須である研究上の理由がある場合に限り、スイス以外の国を訪問することが可能です。

\*\* 旅行期間の欄の記入例：「6月10～19日、10日間」(現地到着日～現地出発日)

\*\*\* 本経費使用予定の有無を記入すること

## (d) 当該年度に受入れたスイス側参加者

出張者 (氏名)	用務先	旅行期間*	用 務
Georgevan van Driem	国際基督教大学	8月26日～9月12日 (18日間)	研究会議
Georgevan van Driem	国際基督教大学	3月28日～31日 (4日間)	研究会議
計 2 名 (延べ人数)		計 22 日	

\* 旅行期間の欄の記入例：「6月10～19日、10日間」(来日日～離日日)

## 8. 研究実施状況

※ 申請書の内容及び当該年度実施計画書の「6. 本年度実施計画の概要」と対応させつつ、当該年度の研究の実施状況を簡潔に日本語にて記入してください。

平成29年は音響とEGGの研究が中心となる時期であった。日本チームの目標は、ネパールのタマン語の二方言とデンジョンケー語の基礎研究に基づき、これらの言語の音声の物理的な特質と音韻論的パターンを調査することであった。

2017年3月27日から4月3日まで日本の研究代表者李勝勲がベルン大学に渡航し、スイスチームと直接対面して準備のための会議を開いた。この会議では、日本チームとスイスチームの詳細な研究計画について話し合った。また、タマン語とデンジョンケー語が話されている地域への研究訪問計画の詳細についても話し合い、確認をとった。

スイスから帰国後、李勝勲と二人のポスドク（博士課程修了者のDr. Hwangと博士後期課程学生のMr. Bajracharya）で音響、EGG研究のマテリアルを約2ヶ月間かけて準備した。また、このマテリアルを吟味、推敲するために、研究顧問の川原繁人（慶應義塾大学）、Julián Villegas（会津大学）、Jeremy Perkins（会津大学）と二日間の研究会議を開いた。

6月中旬から7月下旬までの期間はヒマラヤにおいて、調音とEGGのデータ収集にあてた。スイスチームはすでにこの地域での研究許可を取得しており、日本チームにも同等の研究許可を得てプロジェクトが円滑に進められるようにした。まず、日本チームとスイスチームがネパールのカトマンズで合流し、タマン語のマテリアル収集を協力して行った。その後、二人のポスドク（Dr. Hwang と Mr. Bajracharya）がネパールで研究を続けている間に、研究代表者（李勝勲博士とVan Driem博士）はインドのシッキムでデンジョンケー語のデータ収集を行った。

9月にはスイスチームと日本チーム合同でのワークショップを開催した。それまでの成果について報告、議論を行った結果、タマン語に関して必要な追加調査項目が提示された。

それを受け、12月にはタマン語母語話者と静岡にて直接会い、タマン語データを収集した。それにより、その後のタマン語分析の方向性を決める有益なデータが得られた。

2月には日本チームでワークショップを行い、デンジョンケー語、ゾンカ語、及びタマン語に関する研究成果を報告、議論した。

3月には日本チームから4名（李勝勲、Julián Villegas、Jeremy Perkins、Hyun Kyung Hwang）が参加し、スイスのベルン大学にてスイスチームとの研究会議を行い、成果報告を行った。

研究発表（平成 年度の研究成果）

【雑誌論文】 計（ 2 ）件 うち査読付論文 計（ 2 ）件

通番	共著の有無*	著者名		論文標題			
		Seunghun J. Lee, Shigeto Kawahara, Haruka Tada, Hanna Kaji		A preliminary acoustic study of tone in Dzongkha			
①	有	雑誌名		査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
		日本音声学会予稿集				2   0   1   7	
②	有	著者名		論文標題			
		Seunghun J. Lee, Shigeto Kawahara, Haruka Tada, Hanna Kaji		The acoustic manifestation of laryngeal contrasts in Dzongkha: A preliminary study			
		雑誌名		査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
2017 Seoul International Conference on Speech Sciences [ISSN 2005-9299]				2   0   1   7	151-152		
③		著者名		論文標題			
		雑誌名		査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁

【学会発表】 計（ 2 ）件 うち招待講演 計（ 0 ）件

通番	発表者名		発表標題	
①	Seunghun J. Lee, Shigeto Kawahara, Haruka Tada, Hanna Kaji		A preliminary acoustic study of tone in Dzongkha	
	学会等名	発表年月日	発表場所	
	日本音声学会	2017.9.30	University of Tokyo	

通番	発表者名		発表標題	
②	Seunghun J. Lee, Shigeto Kawahara, Haruka Tada, Hanna Kaji		The acoustic manifestation of laryngeal contrasts in Dzongkha: A preliminary study	
	学会等名	発表年月日	発表場所	
	2017 Seoul International Conference on Speech Sciences	2017.11.11	Seoul National University	

【図書】 計（ 0 ）件

通番	共著の有無*	著者名		出版社	
①		書名		発行年	総ページ数

\*相手国研究代表者との共著がある場合は○、相手国研究代表者との共著であり論文内に事業名を明記している場合は◎と記入した上で、明記されている箇所（頁、巻頭、巻末等）を記入。

\*足りない場合は適宜行を追加して下さい。

9. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

【出願】 計（ 0 ）件

通番	産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別
①						

【取得】 計（ 0 ）件

通番	産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別
①						

## 10. 本事業に対する要望等

スイスチームと日本チームでは学期スケジュールが異なり、長期休業が合わない場合が多い。第三国への出張には両チームが揃って参加することが求められるが、長期休業中が合わない上に、スイスチームの長期休業中は第三国が雨期であったりしたため、予定通り第三国でデータ収集を行うことが困難であった。従って、第三国への出張には両チームが揃わなくても遂行できるよう、規約を変更してもらいたい。